

酪農学園

東日本大震災学生ボランティア オリエンテーション

先発調査隊 活動報告

朴 美愛(教員・キリスト教教育研究室)
関口 明希(大学院酪農学研究科1年)
石川 弘大(酪農学科 4年)

目的

- ・ **実際に現地でボランティア活動を行い、今後の学生ボランティアのための情報収集を行う**
- ・ **被災地の力になること**
- ・ **ボランティアの支援を行うこと**
- ・ **体験を通しての学び**

日程・場所

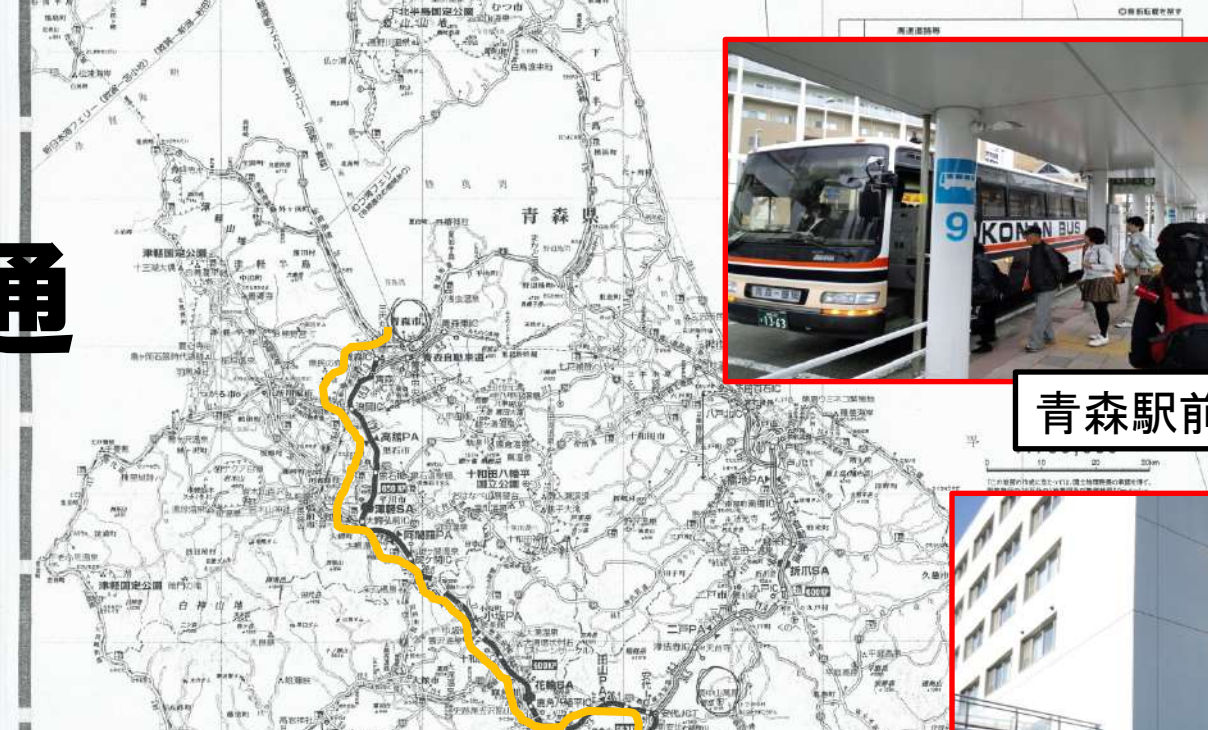
日程: 4月15日(金) ~ 4月24日(日)

場所: 岩手県 大船渡市

日本キリスト教団 大船渡教会



交通



青森駅前バスターミナル



大船渡病院



盛岡駅前バスターミナル



活動内容

- ・ **物資仕分け、配布**
- ・ **ボランティアの方への炊事、滞在先の掃除**
- ・ **がれき除去、清掃(社会福祉協議会を通じたボランティア活動)**

大船渡市



駅構内と線路



社会福祉協議会での ボランティア活動地



陸前高田市



団地の建物。4階の高さまで津波が
突き抜けていったことが分かる。



震災前の生活を想像 させる遺留品など



陸前高田市に唯一 残った畜産農家



物資配布の風景





毎日今更け合います。
ひとつの品を独りして
お持ちにならないよう
お願い致します。

作業中...



一緒に過ごした人たち





↑チャイルドファンド
ジャパン事務局長の小林
さん（本学卒業生）

↓後続隊へ引き継ぎ



現地の状況

- ・ 沿岸部は壊滅状態、丘の地域は無傷
- ・ 固定電話が通じない(インターネット不可)
- ・ スーパーマーケットが2店舗営業
 - (外食店、GS、ホームセンターも営業)
- ・ 風が強く、粉じんが舞いやすい。魚の匂い
- ・ ボランティア受入先が不安定ゆっくり休める宿、
(社会福祉協議会も人員不足・・・)

現地の声

- 若者の力が必要
- 持続的にボランティアを送ってほしい
- 避難生活は1ヶ月が限界・・・
- 物より人間的な繋がりがほしい
- 心のケアが求められている

課題

- **ボランティアへの支援**

具体的には・・・

- **食事提供**
- **ゆっくり身体を休める宿の確保**

- **動けない人への物資供給、ケア**

<現状>

- **動ける人は物を手に入れられる**
- **手に入る物資の量に差が出ている**
- **不公平が生じている**

ボランティア活動に赴く条件

- ・ **両親、周囲の人の承諾**
- ・ **学生部への届出**
- ・ **ボランティア保険の加入（学生課で加入）**
- ・ **学期中は原則1週間の活動(期間中は公欠)**

用意する物

・ 日常で必要なもの

- 寝袋、(あればマット)
- 着替え、防寒着、常備薬
- 名札 (ボランティアスタッフとわかるように)
- 食料

あれば便利!
ウェストポーチ

・ 物資管理で必要なもの

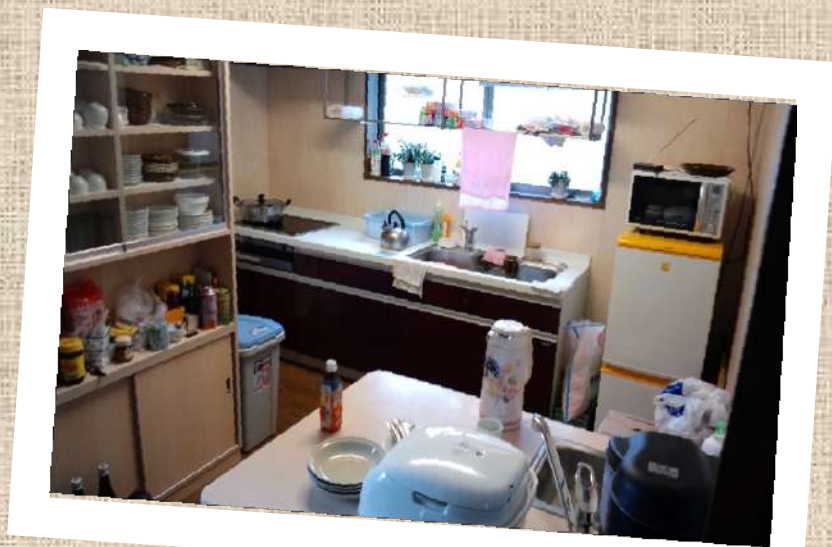
- カッター、油性マジック、筆記具、メモ帳
- 滑り止め付き軍手

・ 野外の清掃で必要なもの

- 長靴、帽子、マスク、雨具(かっぱ)、防塵メガネ
- ゴム(牛革)手袋

現地ボランティアに求められること

1. **心身の健康管理（自己管理）**
2. **目的意識の自覚**
3. **周囲、チーム内の連携**
4. **状況に応じた柔軟な対応力**
5. **食事作り**



感想

